

3-6

庶発第253号 昭和29年5月1日

内閣総理大臣 吉田 茂 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

教育・研究施設その他の接收解除について（要望）

終戦後、米軍当局により接收された教育ならびに研究施設その他の建物および敷地の中で、講和条約の発効後も、未だに接收を解除されないまま、現在にいたつていものがあることは、まことに遺憾である。

よつて、なるべく速やかにその接收が解除されるよう、政府において有効適切な対策を講ぜられたく、ここに本会議第17回総会の議により要望します。

3-7

庶発第659号 昭和29年9月21日

内閣総理大臣 吉田 茂 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

皆既日食の観測実施について（要望）

昭和30年6月20日、セイロンからビルマ、タイ、仏印、フィリッピンを経て南太平洋に亘つて皆既日食が観測されます。

この皆既日食の観測の実施は、科学の進歩に多大の貢献をすることができると考えられるので、各機関は、下記のとおりそれぞれの題目について観測を実施する希望並びに計画をもつています。

つては、この観測が有効に実現できるように、政府におかれては各機関が必要とし計上する予算、渡航の便宜および現地政府の便宜提供について、特別な考慮を払われるよう本会議第83回運営審議会の議により、要望します。

記

1. 彩層およびコロナ輝線の分光写真観測
東京天文台 (セイロン)
2. コロナの偏光・写真測光
東京天文台 (セイロン)
3. 外部コロナから黄道光までの広範囲の光電測光
東京天文台 (セイロン)
4. 単色測光法による太陽コロナK F成分の分離観測
東北大学理学部天文学教室
東京天文台 (セイロン)
5. 閃光スペクトルの観測
京都大学理学部宇宙物理学教室 (バンコック)
6. コロナの偏光観測
京都大学理学部宇宙物理学教室 (バンコック)
7. 太陽電波の同時観測

東京天文台 (鹿児島, 三鷹)

8. 皆既食に伴う地磁気の三成分の変化観測
東北大学理学部地球物理学教室(セイロン)
9. 皆既食に伴う地磁気脈動の変化観測
東北大学理学部地球物理学教室(セイロン)
10. 地磁気三成分の変化, 変化度および絶対観測
京都大学理学部地球物理学教室(奄美大島)

3-8

庶発第701号 昭和29年10月27日

内閣総理大臣臨時代理 国務大臣 緒方竹虎 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

研究公務員制度について(要望)

わが国の国民生活の向上と経済自立を達成するためには、科学技術の振興を基盤とした国力の充実が急務であると考えます。しかるに、現行制度のもとにおいては、科学技術に従事している研究公務員(特殊技能者を含む)の特殊な立場と職能が考慮されていないため、研究者に課せられた重大な責務の遂行に支障をきたすところが少なくありません。

政府においては、特に公務員制度調査会を設けて、わが国の実情に即応する合理的な公務員制度の確立をはかるため公務員に関する諸制度を調査審議しておられますが、この際、研究に従事する公務員の取扱いについては、特別な措置を講じて合理的な制度が確立されよう、慎重審議の上、格別な御配慮を払われたく、ここに本会議第18回総会の議により要望します。

(附記) 本会議科学者の待遇及び研究公務員制度委員会が作成した資料「研究公務員制度について」を、御参考に供するため添付いたします。

「資料」

研究公務員制度について

一現在迄の経過と問題点一

日本学術会議科学者の待遇及び研究公務員制度委員会委員長

駒形作次

1. 研究公務員の職務について

研究に従事する公務員は研究を通して国民全体に奉仕して人類文化の進展に貢献することをその職務とする。特にわが国の再建と国民の生活水準向上のため研究公務員が持つ役割は極めて重大であるが、現実には先進国におけるとは甚だ異り極めて困難な事情のもとに研究を行つて居り、有能な研究者をしてその研究に専念せしめ得る様充分な配慮がなされることが望ましい。

最近わが国における給与政策は米国で発達した職階制度がとり入れられその合理化近代化が計られつつある。しかしながら研究者に職階制を適用する際には本質的な問題が存在する。すなわち職階制は本来テーラーシステムに由来する工場管理本位の生産能率を目的とするものであり、その根本観念は個人を離れた職自体についてその職務の内容、困難性、複雑性、責任の程度について分類